

火災多発期に備え放水訓練

消防団・婦人消防隊一斉放水訓練

北秋田市消防団と婦人消防隊による一斉放水訓練が4月2日、各地区で行われ、手際よく機器を設置し、放水を行いました。

この訓練は、春季の火災多発期を迎え、消防ポンプ等の機械器具の点検や知識と技術の向上を図る目的で実施されているものです。

訓練終了後の閉会式では、統監の岸部市長が、「日頃の訓練のおかげで市民は安心して生活できる。普段の仕事の傍ら、市民の安全を守っていただき大変ありがたい。これからも積極的に訓練に励んでほしい」とあいさつ。

また、中村消防団長は「日頃の訓練や点検とともに、市民への意識啓発にも努めていただきたい」と訓示を述べました。



鷹巣中央公園堤の中央部に向けて一斉放水



地域産材を使用した郷の杜わきがみ会館

地域産材・集成材を使用

協神森林交流センター「郷の杜わきがみ会館」

昨年からの工事が進められていた協神森林交流センターがこのほど完成し、3月31日、同館で竣工式が行われました。

同館は、市の林業振興を図るため、地域産材の杉材を使用しており、特に建物の正面や玄関ホール、柱・梁材には地元協神の山林から産出した杉丸太を使用し、他の主要な構造材には米代川流域の市町村が支援した集成材加工施設の高次加工品（集成材）を使用しています。

館内には、大ホール、研修室、実習室、交流コーナー等があり、秋田杉のもつ温もりが表現され、全館バリアフリー化とし誰でも気軽に利用できるようになっていきます。

楽しみは川でカジカ突き

山村留学まるとび学園 入園祭

山村留学まるとび学園の入園祭が4月3日、市学童研修センターで行われ、園長の三澤仁教育長が「この地は、とても自然が豊かで、経験したことのない事がたくさんあります。ぜひ楽しみに」と歓迎のあいさつをしました。

子どもたちは「木登りと染物の研究をしたい」、「川でカジカ突きをしたい」など山村留学での抱負を発表してくれました。

今年度は、山野井淳仁さん（茨城・小6）四家怜菜さん（秋田・小6）清水真澄さん（神奈川・小6）松尾洋希さん（千葉・小5）仲宗根瑠美さん（神奈川・小4）春日原美樹さん（東京・小4）春日原美草さん（東京・小3）の7人が山村留学生活を送ります。



山村生活をスタートさせる7人の子どもたち

為三の名曲をいつまでも

浜辺の歌音楽館少年少女合唱団

浜辺の歌音楽館少年少女合唱団の第16回スプリングコンサートが4月1日、森吉コミュニティセンターで開催されました。

合唱団は、浜辺の歌音楽館のオーブンのあわせ、為三作品を歌い継ぐと旧森吉町立の合唱団として昭和63年に結成されました。

この日は、合唱団の妹分弟分として活動している「はまべのうたキッズ」や合唱団出身者や音楽愛好家をメンバーとする「MMC」とともに為三作品や現代曲、クラシックなどを披露。また、合唱団出身で今年1月にCDデビューした本城奈々さん（本名：九島奈々恵・19）のオリジナル曲「心に息」もレパートリーのひとつに加わり、美しいハーモニーで会場をやさしい歌声で包み込みました。



「世界中の子どもたちが一度に笑ったら」と元気よくはじまったスプリングコンサート

内陸線・打当温泉活性化へ

18年度阿仁婦人会総会

阿仁婦人会の総会が4月2日、打当温泉マタギの湯で開かれ、19年度に開催される秋田わか杉国体への協力体制の確立などを盛り込んだ事業計画を決めました。

三杉会長は「合併して1年、1人ひとりが自分たちが出来ることをしっかり頑張っていかなければならない。今回内陸線を利用してこの場所で総会の開催にいたったのは、この地域に住む私たちが内陸線存続と打当温泉の活性化を率先して今まで以上に声を上げて展開していくため」とあいさつしました。

総会では「温泉経営開きの中での思い」と題し、打当温泉マタギの湯支配人佐々木功氏が講演を行いました。



事業計画などが話し合われた総会

元収入役北林進氏が逝去



元森吉町収入役の北林進氏が、3月22日午前4時30分逝去されました。享年73歳でした。北林氏は、昭和26年能代工業高校を卒業後、

森吉町役場に採用され、61年に建設課工事課長補佐、62年に教育委員会社会教育課長補佐、63年に社会教育課長を歴任。平成元年4月1日からは収入役に起用され、平成5年3月31日までの1期4年間務められました。

職員時代は、生涯学習推進のため、「いつでも、どこでも、だれでも学べる」という理念に基づいた地域社会づくりを展開するとともに、成田為三を顕彰する浜辺の歌音楽館建設にも尽力されました。

収入役時代は、森吉町の過渡期にあり（財）森吉町観光開発公社の設立、老人保健施設「もりよし荘」の建設、森吉山タムの建設事業に伴う一般補償に関する調印、「大館能代空港」第6次空港整備5ヶ年計画へ予定事業として組み入れなど、多岐に渡りました。その間にも、地域の活性化へ向け、若者の定住促進と雇用の安定確保に努め、森吉町はもとより東北地域の発展に貢献され、今日の基礎を造られました。

退任後は、スポーツの健全な普及及び発展に貢献し、特に、平成6年から14年までは、森吉町陸上協会の会長として、競技の普及、指導等に加え、人材の育成にあたられ、陸上競技の振興に顕著な成果をあげられました。ここに謹んで、市民の皆さまとともに哀悼の意を表したいと存じます。